

企業の視点現場で学ぶ

実学重視をうたう三条市立大（上須領）の「目玉カリキュラム」となる約4カ月に及ぶ産学連携実習が、燕三条地域を中心とした企業57社で行われている。期間が一般的な大学生向けの実習よりも長いのが特徴で、1期生の3年生が参加している。ものづくりの技術だけでなく、消費者にどう評価されるかなどの企業活動に必要な観点を磨く。

市立大は主に燕三条地域の人が実習している。10月下旬約140社と協力関係を結ぶ「地域全体をキャンパス」としている。2年時に3社で各2週間の「産学連携実習」を単位修得した73人が、ことに拡大鏡を付けることなどをし9月19日～来年1月18日、実習Ⅱとして参加。週4日、1人で、金属加工や機械器具、工具メーカーなど多様な企業へ「出社」し仕事を学ぶ。実習先は学生の希望などに基づいて大学が調整している。

精密機械器具や計測機器を製造するシンワ測定（三条市興野3）では、夏目侑樹さん（20）、渡辺伊吹さん（20）の2

人が実習している。10月下旬、燕市小池の同社物流センターで、社員とテーブルを囲み、計測メジャーの開発についての話し合いに参加。メジャーに拡大鏡を付けることなどを提案した。

夏目さんは「新しいものを作るために必要な考え方を学べる」と実感。渡辺さんは「どう売り上げを出すかを考えて製品を開発するという実習ならではの勉強ができる」と語った。

燕三条地域には、ユニークな分野で世界トップレベルの製品作りをしている企業が多

三条市立大生 4ヵ月実習

受け入れ先にも刺激



シンワ測定の物流センターで、商品開発について社員と話し合う夏目侑樹さん（奥右）と渡辺伊吹さん（奥左）＝燕市小池

い。園芸用刃物などのメーカー「相場産業」（三条市金子新田）は、サイクリスト用の

メンテナンス工具やアクセサリーのブランド展開でも愛好者に知られている。自身もマウンテンバイク（MTB）競技に取り組む齋木司さん（21）は、同社での実習を希望。MTBコースの整備のための用具開発などの実習に参加している。自分の経

験も踏まえながらアイデアを出し、図面を描いて形にしていく工程を体験。「企画、開発から製品を作るまで、実際の流れが分かる」と手応えをつかんでいる。

ドライバーなど工具メーカーのアネックスツール（同市塚野目）では、菊田大亮さん（22）が、電動工具を狭い場所でも使いやすくするためのタッチメント開発などの実習を受けている。大学で学んできたコンピューター利用設計システム（CAD）の技術を活用し、試作品の使い勝手を確認するなどしている。「使う人にとってどうすると良いのか、実際に確かめながら開発していく考え方を学べる」と話す。

大学で技術を学んできた学生が製品作りに積極的に関わることができる、会社側にもメリットがあるという。同社の兼古敦史代表は「想定していた以上に高い技術を持っていて驚かされる。新製品の開発には新しい風が必要。学生の発想や考え方は、社員に刺激になっている」と語った。